



# おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

6月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2013年(平成25年) 6月1日(土)

NO. 142

## 倫理文化講演会

五月十九日(日) 午後一時半

よりホリデーイン・トーレンスで「母の品格―家庭の太陽―」をテーマに開かれた。講師は、和田毅生涯局教育企画部部長。開演前のやさしい音楽が流れる中、会場はほほいっぱいとなる。司会は土佐美代子さん。

尾崎泰斗君のスピーチ「母への感謝」が始まった。あと一ヶ月で高校を卒業するが、わがままだった自分を大らかにやさしく包んでくれた母に、心から感謝している、というスピーチで聴衆を感動させた。

体験発表は川田末子さん。先日亡くなったお母さんのことを語る。母の戦争体験、家族のために働きつめだったお母さん、母の死は悲しかったが、鶴川文子先生の倫理セミナー「感謝の言葉で亡くなった主人を送り出す」話しをきょうだいに話し、皆で「おかあさん、ありがとう」と感謝でお別れをすることが出来た、という悲しみの中にも愛情溢れる発表であった。

次に和田毅部長の講演が始まる。「品格とは」「品格II人格」とパワーポイントを使い、要点を示しながら進める話しに聴衆は聴き入った。

品格とは生き方が総合的に収斂されたもので、心をコントロールするために倫理が必要になってくる、また、品格は家庭の中で育まれるので、「母」に望むことは志を持って薫化の中心者になって欲しいということ。家庭は和楽の中心、太陽のようであって欲しいと話された。

次いで、小児癌で亡くなった四歳の子の母のブログがテレビ番組に作られたのをスクリーンで紹介。母親の子を愛する心、子を亡くした悲しみがひしひしと伝わる。命のつながりを意識することが感謝になり、感謝の心が自分を元気にし、皆が幸せになるのである、母の品格が家族の品格アップに繋がるのである、情緒、情操が豊かになるようにと講演を終えられた。聴衆は最後まで熱心に聞き入った。

図書紹介、会長の挨拶で講演会は閉会となった。  
(参加者百二十名)



## モーニングミキサー

五月十九日(日) 倫理モーニングミキサー(朝の集い)

に和田毅生涯局教育企画部部長を迎え行いました。

実践報告は二人。ホン史子さんは、勤務で疲れていたため、母の日にホームに住む姑を訪ねるのをためらっていたが、丸山敏秋理事長の『おかあさん』を読んで母の無償の愛に感動。涙で反省し翌日姑に会いに行き喜ばれたことを報告。

大竹信雄さんは、毎週、日曜日の朝オフィスの拭き掃除をしている氏家さんより掃除の仕方を習い、購入したシニアホームで実践したところ、以外と簡単に綺麗になるのでうれしく、氏家さんに感謝の報告をされた。

続いて和田部長が、二人の実践報告について感想を述べられた後、今日の輪読、第八条「明朗愛和」について分かり易く講話された。

明朗は幸せの元である。環境・周囲が明るいから私達が明朗になるのではない。私達自身が努めて明るく振舞うことにより、環境が明るく朗らかに変わっていくのである。明るい顔、これは鉄則である

と、倫理法人会の会員の例を引かれ、占いの人相学でも、人相が明るいから裕福になるんですという興味ある話しをされた。

明るい顔は家庭教育が影響する。影響には感化、教化、訓化などがあるが、特に感化が重要である。

薫化は教えなくても家庭にあるもの。親の生き方を見せることで子供が自然な風のように受けるもの。ある実践報告として、東北大地震災に消防士として赴任した息子が、避難所での出来事を目の当たりに見、七歳の息子が家族と一緒に居られるだけで有難い、親子の時間を大事にしたいと涙で伝えていたことから、自分も三世代同居の中で実践をして家族関係が良くなった薫化の例を話された。

明朗愛和とは日々の家庭における親の生き方にかかってくる、離れていても薫化は効力がある、有難い、有難うの気持ちで喜働になると締めくくられた。

倫理の原点を教えていただいた講話でした。

(参加者二十七名)  
(梅本和子記)

おめでとうございます

『秋津書道』五月号

調和体

入選 咲田静子 高等部 (東京)

入選 梅本豊造 々 々

競書

入選 滝川政和 人の部 (東京)

四席 梅本豊造 高等部 々

入選 咲田静子 々 々

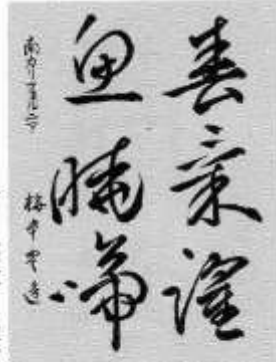
七席 羽島照子 一般部 (東京) 草書

入選 前田グレース 々 行書

五席 竹内康子 々 楷書

入選 佐藤いずみ 々 々

入選 ノーリスてるみ 々 々



良く練習された筆の動きがすばらしい。

4席 梅本 豊造

展示作品

『しきなみ』五月号は残念ながら入選無し。

文化講演会の会場に展示しました。書道、短歌の会員の日頃の賜物です。



図書販売

三十七冊・三百二十五ドルの売り上げがありました。伊澤潤子さんの図書紹介のおかげですね。

懇親会デイナー

講演会の後、コーヒータムで参加者の交流をもちました。会場に飾られた花は胡蝶蘭と香り高いカサブランカ。午後五時にデイナーが始まりました。川田薫会長の挨拶、和田毅先生への記念品贈呈で、皆和やかに食事を頂きました。お料理は美味しかったです。お世話下さった前田グレースさんに感謝です。名残は尽きませんでした。が会の発展を祈って川田会長の三本締めで全てを終了しました。(参加者四十名)

しきなみ短歌

潮待ちの昼の下がりの棧橋の打たれし  
杭の青の海苔好し 西島幸彦  
子や孫と十人並びて回転ずし皿の高さを眺める幸せ 滝川歌子  
大好きな紫色の胡蝶らん久々に見る心安らぐ 奥本洋子  
離れ住む不孝を背負う我が想い母に届けと今日は命日 杉野和子

七十の手習いとして学びつつ師のあたたかき墨跡辿る 長谷川公子

信じてよ絶対治ると信じてよ私は信じたそんな力を 塩出笑子

年老いてぼつりぼつりと友去りぬ今日も佳き日とがんばるわたし 橘高比呂美

かき分けし葉影にひそむ蕾たち出番を待つてる今か今かと 伊澤潤子

病む母は青い顔して苦しみつつ我を誰かと首かしげ居り 梅本豊造

食拒む姑に気長に向かい合い励まし宥め食べさす夫は 梅本和子

ことさらに欲しきものなき一人居や夕餉に豆腐一丁買いぬ 門園美枝子

霜月に蒔きし大根まだ寒き弥生の土分け白き顔出す ホン史子

土葬より知らぬ我の目の前に白より白き兄の白骨 松永典子

『裏庭で採れた高菜』と我を呼び袋一杯持ちくれる友 草野律子

癌と言うこの一文字が受け入れがたく異物と書いて客観視する吾 摺木洋子

野の花の様な笑顔を絶やさずに歩いてほしいあなたの笑顔 松元依子

琴の音につられて集う吉野山宮司の講話桜に染まる 大川敏子

新緑の谷間流るるせせらぎの細波の白さの目にすがしもよ 伊勢田豊

溶け残る雪かと思えば氷なり足元危き底冷えの朝 矢口裕司